

## 『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出（五訂稿）

—『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—

（令和（2022）年6月27（月）現在）

（作成、補正経緯等）

初稿：平成18（2006）年10月1日作成

改訂稿：平成19（2007）年1月1日作成

再訂稿：平成19（2006）年10月11日作成

三訂稿：令和3（2021）年11月7日（日）作成

四訂稿：令和4（2022）年4月1日（金）作成

五訂稿：令和4（2022）年6月27日（月）作成

・平成19（2007）年1月1日：本稿は、『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録（三訂版）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第七輯）—』（平成18（2006）年10月1日刊）の「栞」に収録し、次いで、『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録（二訂版）—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録（初稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第八輯）—』（平成19（2007）年1月1日刊）中の「1 栗生武夫先生略年譜・著作目録（六訂稿）」（附篇2）に収載したその改訂稿を、更に一、二補正したものである。

・平成19（2006）年10月11日：一部補正した。

・令和3（2021）年11月7日：全面的にレイアウトを変更し、一部補正した。

・令和4（2022）年4月1日：更に一部補正した上で、『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和4（2022）年4月1日刊）に収録した。

[〈https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056〉](https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056)

・令和4（2022）年6月27日：別稿に、『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』（平成8年8月1日作成）そのもののPDF版を掲載した。いずれ入力化できればと願っている。

（関連 HP）

・「日本のローマ法」

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm)

・「法制史学者著作目録選」

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm)

・「栗生武夫先生略年譜・著作目録」

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf)

・「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_chuhon.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)

## 〔目 次〕

- 1 はじめに ……………2
- 2 『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯』  
(平成 8 (1996) 年 8 月 1 日作成) 内容一覧 ……………2

### 1 はじめに

久保正幡先生の御理解と御配慮を賜わって、竹内英治氏と『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(序文: 牧英正先生。自己出版、平成 8 (1996) 年 6 月 25 日刊) の復刻編集をしてから早 10 年の歳月が流れた<sup>1</sup>が、当時お世話になった小早川先生御令弟の巖様が去る平成 18 (2006) 年 9 月初め 99 歳で長逝された。謹んで御冥福をお祈りいたすものである。当時は、当今はやりのオンデマンド出版ということばも一般には知られておらず、800 頁近い編集作業には、いささか苦勞した<sup>2</sup>。当初、素人が最初からこのような大部な作業をしても、うまくいかないのではないと思ひ、その試作として、栗生武夫先生 (1890~1942) の随筆集の補遺をまず作成することとした。このため、栗生先生『一法学者の嘆息』(弘文堂書房、昭和 11 年 10 月 15 日刊)<sup>3</sup>に未所収のもの及びその後発表されたものの写しをとって、貼り付け、印刷するという「原始的」作業をした。

これは、その後、『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』(平成 8 年 8 月 1 日作成) と題して、少部数印刷したが、原本よりの写し作成がうまくいかなかったものもあったため、結局未定稿のままになっている。しかるに、近年各種電子資料の発達に伴い、更に多くの随筆類の初出検索が極めて容易になったことでもあり、改訂増補を施し、いずれなんらかの形にまとめ直したいと考えている。御示教の程を切にお願いするものである<sup>4</sup>。

ここでは、取りあえず上記資料収録諸論稿のみを紹介しておくにとどめる。

---

<sup>1</sup> その後、CD 版『小早川欣吾先生東洋法制史論集 (増補版) 併載: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録 (八訂稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十二輯) —』(竹内英治氏との共編、平成 28 (2016) 年 8 月 1 日刊。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり。) が出ている。(令和 3 年 11 月 7 日追加)

<sup>2</sup> 本 HP 掲載「法制史コーナー 2-1 小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」」参照。  
(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>)

<sup>3</sup> 2 和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」中の「梅雨空文庫」にも収録されているが、現在は閲覧不能のようである (<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/tuyuzora.htm>)。

(追記) 令和 3 (2021) 年 11 月 7 日現在では、下記で閲覧できる。(令和 3 年 11 月 7 日追加)

(<http://books.salterrae.net/about/>)、(<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>)

(<http://books.salterrae.net/tuyuzora/html/ITIHOAGAKUSYANOTANSOKU.html>) (PD 図書室)

<sup>4</sup> 令和 4 (2022) 年 6 月 27 日: 別稿に、『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』(平成 8 年 8 月 1 日作成) そのものの PDF 版を掲載した。いずれ入力化できればと願っている。

## 2 『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集 第一輯』

(平成8(1996)年8月1日作成) 内容一覧

はしがき …………… (1) ~ (2)

栗生武夫先生(1890~1942)研究のために、先に竹内英治氏の助力を受けて、「栗生武夫先生著作等目録稿(三訂稿)」(平成8(1996)年2月1日刊)を作成した。この過程で気付いたことであるが、栗生先生には、単行本未収録の論稿がなおかなり存在する。このため、今後これらを逐次取りまとめていきたいと考えているが、ここに、第一輯として、随筆を集めてみた。

周知のように、栗生先生は、名文家として知られ、その随筆集としては、『一法学者の嘆息』(弘文堂書房、昭和11(1936)年10月15日刊。以下「同書」。)があるが、本輯では、同書に漏れたものの一部と同書刊行後に執筆されたものを収めた。本来ならば、すべてワープロで打ち直した上で再編集すべきであろうが、今はその余裕がない。ただ複写して、発表年代順に並べたのみにすぎない。このうち、「(参考)法規史の観念」は、同書に「法律史の形態」として、一部改稿して収録されているが、当時のドイツにおける法制史の動きとも密接に関連していると思われるので、あえて「参考」として収めておいた。なお、新聞掲載のものについては、各縮刷版を拡大したので、却って読みにくくなったことをお断りしておく。いずれ再編集の機会を持ちたいと考えている。

今般、私どもの知り得る限りでの随筆の類を収めたが、なお遺漏なきを期し難い<sup>5</sup>。御教示を賜れば幸いである。

平成8年8月1日

渋谷金王神社界限にて

編者 謹誌

目次 …………… (3) ~ (4)

- 1 八月の論壇(3) 華々しき論戦—日本資本主義の特質問題—(初出:『東京朝日新聞』昭和9年7月30日) ……………1
- 2 高等試験令の改正(上)—自由主義下の官吏政策—(初出:『東京朝日新聞』昭和12年12月14日) ……………2
- 3 高等試験令の改正(下)—統制主義下の官吏政策—(初出:『東京朝日新聞』昭和12年12月15日) ……………3
- 4 (書評)カレントブックス(田村徳治「学問と世界の真実」(立命館出版部)他)(初出:

---

<sup>5</sup> 栗生先生著作目録の[平成19年]現時点での最新稿は、『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録(二訂版)—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録(初稿)—ローマ法・法制史学者著作目録選(第八輯)—』(平成19(2007)年1月1日刊)中の「1 栗生武夫先生略年譜・著作目録(六訂稿)」である。(追記:その後逐次補正中である。)

- 『帝国大学新聞』第703号、昭和13年1月7日号) ……………5
- 5 質的改正を望む一不徹底な高文改正案(初出:『帝国大学新聞』第707号、昭和13年2月14日号) ……………6
- 6 震災の思出(初出:『文藝春秋』昭和13年7月号) ……………7
- 7 事変の世界史的意義(初出:「法学」サロン第41号(『法学』第8巻第1号附録、昭和14年1月1日刊)、後に、東北帝国大学法学会編『法学瑣論』(岩波書店、昭和14年9月16日刊)に一部改稿の上収録。) ……………9
- 8 論文について(初出:「法学サロン」第48号(『法学』第8巻第8号附録、昭和14年8月1日刊)) ……………13
- 9 杉浦先生(杉浦重剛(1855~1924)。初出:『文藝春秋』昭和14年8月号) ……………14
- 10 法律学の一転回(初出:『帝国大学新聞』第828号、昭和15年10月21日号) ……15
- 11 日本固有法論の使命一生々と抱きもつ法律感情の組織化一(初出:『帝国大学新聞』第842号、昭和16年2月3日号。東北帝国大学法文学部日本固有法論講座新設に当たってのもの。) ……………17
- (参考)法規史の観念(初出:『京都帝国大学新聞』第130号、昭和5年10月5日号。『一法学者の嘆息』(弘文堂書房、昭和11年10月15日刊)に一部収録。) ……………21
- (初出一覧) ……………25~27

奥付

(補遺)

月と政治((銃眼)。初出:『文藝春秋』時局増刊12、昭和13年9月10日刊)(平成18年1月13日判明追加)

(了)